SONY

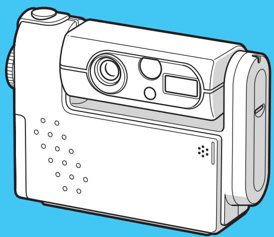
3-078-409-**02** (1)

取扱説明書

サイバーショット基本編

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「サイバーショット応用編／困ったときは」、「サイバーショットBluetooth編」、「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。



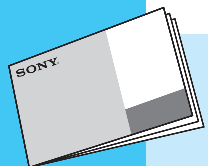
Cyber-shot
Digital Still Camera

MEMORY STICK TM

InfoLITHIUM TM C TYPE

Bluetooth™

DSC-FX77



別冊の
「サイバーショット応用編／困ったときは」、「サイバーショットBluetooth編」
もご覧ください。

こんなことができます

静止画を撮る

19～33ページ

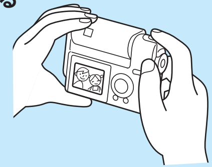


静止画を見る

34～37ページ

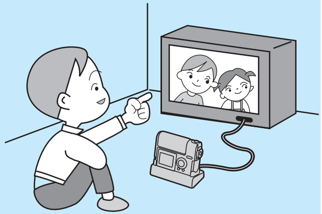
液晶画面で見る

34～35ページ



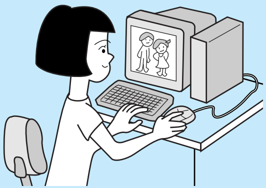
テレビで見る

36～37ページ



パソコンに取り込んで見る

43～60ページ



Eメールに添付して送る

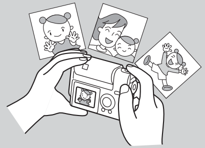
別冊応用編 14ページ



別冊の*「サイバーショット応用編／困ったときは」*

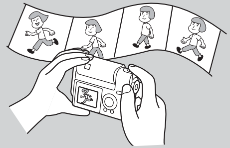
いろいろな静止画の撮影／再生／編集

5～25、32～42ページ



動画を撮る／見る

26～31ページ



困ったときは 43～56ページ

別冊の*「サイバーショットBluetooth編」*

Bluetooth機能を使って画像を送受信する 10～23ページ

リモートカメラとして使う

7～9ページ

目次

別冊の「サイバーショット応用編／困ったときは」について

「サイバーショット応用編」では、静止画の応用的な使いかたや、動画の撮影方法などを説明しています。

また、**「困ったときは」**（43ページから）では、本機を操作していて困ったときの代表的な対処方法を説明しています。

別冊の「サイバーショットBluetooth編」について

「サイバーショットBluetooth編」では、Bluetooth機能を使った画像の送受信、VAIOを使って本機をリモートカメラとして使用する方法などを説明しています。

「サイバーショット応用編／困ったときは」、「サイバーショットBluetooth編」に操作方法などの詳しい説明が載っている場合、本書では「**別冊応用編** ➞ ページ番号」、「**別冊Bluetooth編** ➞ ページ番号」のようにご案内しています。

お使いになる前に

ためし撮り

必ず事前にためし撮りをして、正常に記録されていることを確認してください。

撮影内容の補償はできません

万一、カメラや記録メディアなどの不具合により撮影や再生がされなかった場合、画像や音声などの記録内容の補償については、ご容赦ください。

バックアップのおすすめ

万一の誤消去や破損にそなえ、必ず予備のデータコピーをおとりください。

画像の互換性について

- 本機は、（社）電子情報技術産業協会（JEITA）にて制定された統一規格“ Design rule for Camera File system ”に対応しています。
- 本機で撮影した画像の他機での再生、他機で撮影／修正した画像の本機での再生は保証いたしません。

著作権について

あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物などの中には、個人として楽しむなどの目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

機器認定について

本製品は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、技術基準適合証明を受けています。従って、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。
ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられることがあります。

- 本製品を分解／改造すること
- 本製品の底面に貼ってある証明ラベルをはがすこと

周波数について

本製品は2.4GHz帯の2.400GHzから2.4835GHzまで使用できますが、他の無線機器も同じ周波数を使っていることがあります。他の無線機器との電波干渉を防止するため、右記事項に注意してご使用ください。

この機器のBluetooth機能使用時の注意事項

本製品の使用周波数は2.4GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. 本製品を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本製品と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本製品の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止し（電波の発射を停止）してください。
3. 不明な点その他お困りのことが起きたときは、テクニカルインフォメーションセンターまでお問い合わせください。
   テクニカルインフォメーションセンターについては、本取扱説明書の裏表紙をご覧ください。

2. 4 FH 2

この無線機器は2.4GHz帯を使用します。変調方式としてFH-SS変調方式を採用し、与干渉距離は20m以下です。

Bluetoothを使った機能は、日本国内のみで使用できます。

本機に振動や衝撃を与えないでください！

誤作動したり、画像が記録できなくなるだけでなく、“ メモリースティック ” が使えなくなったり、撮影済みの画像データが壊れることがあります。

液晶画面、液晶ファインダー（搭載機種のみ）およびレンズについて

- 液晶画面や液晶ファインダーは有効画素99.99%以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現れたり、白や赤、青、緑の点が消えないことがあります。これは故障ではありません。これらの点は記録されませんので安心してお使いください。
- 液晶画面や液晶ファインダー、レンズを太陽に向けたままにすると故障の原因になります。窓際や屋外に置くときはご注意ください。
- 本機をご使用にならないときは、レンズ部を収納しておいてください。

カール ツァイスレンズ搭載

本機はカール ツァイスレンズを搭載し、繊細な映像表現を可能にしました。本機用に生産されたレンズは、ドイツ カール ツァイスとソニーで共同開発したMTF*測定システムを用いてその品質を管理され、カール ツァイスレンズとしての品質を維持しています。

* Modulation Transfer Function（モジュレーション トランスファー ファンクション）の略。コントラストの再現性を表す指標です。被写体のある部分の光を、画像の対応する位置にどれだけ集められるかを表す数値。

湿気にご注意ください！

雨の日などに屋外で撮影するときは、本機を濡らさないようにご注意ください。

結露が起きたときは、結露を取り除いてからご使用ください（**別冊応用編** → 66ページ）。

日光および強い光に向けて本機を使用しないでください！

目に回復不可能なほどの障害をきたすおそれがあります。

本書中の画像について

画像の例として本書に掲載している写真はイメージです。本機を使って撮影したものではありません。

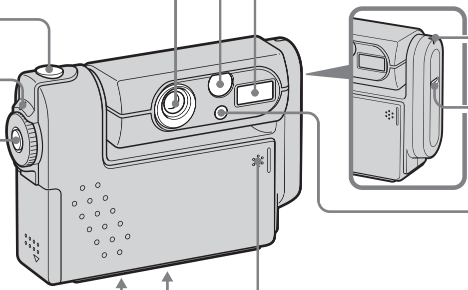
商標について

- “ Memory Stick ”(“ メモリースティック ”)、MEMORY STICK™ および“ MagicGate Memory Stick ”(“ マジックゲート メモリースティック ”) はソニー株式会社の商標です。
- “ メモリースティック　デュオ ”および“ MEMORY STICK DUO ”はソニー株式会社の商標です。
- “ メモリースティック　PRO ”および“ MEMORY STICK PRO ”はソニー株式会社の商標です。
- “ マジックゲート ”および“ MAGICGATE ”はソニー株式会社の商標です。
- “ InfoLITHIUM（インフォリチウム）”はソニー株式会社の商標です。
- MicrosoftおよびWindowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- MacintoshおよびMac OS、QuickTimeは、Apple Computer, Inc.の登録商標または商標です。
- PentiumはIntel Corporationの登録商標または商標です。
- BLUETOOTH™は、商標権利者が所有しており、ソニーはライセンスに基づき使用しております。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中には™、®マークは明記していません。

各部のなまえ

カッコ内の数字はページ数です。

本機



別冊の**「サイバーショット応用編／困ったときは」**、**「サイバーショットBluetooth編」**に操作方法などの詳しい説明が載っている場合、本書では「**別冊応用編** ➡ ページ番号」、「**別冊Bluetooth編** ➡ ページ番号」のようにご案内しています。

- 三脚を取り付けるときは、ネジの長さが5.5 mm未満の三脚をお使いください。ネジの長い三脚ではしっかり固定できず、本機を傷つけることがあります。
- 撮影時、マイクには触れないでください。

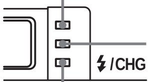
SMART ZOOMボタン（撮影時）（23）／
インデックスボタン（再生時）（35）

コントロールボタン
（メニューON時）（▲/▼/◀/▶/●）（16）／
（メニューOFF時）⚡/⏲/◫/🌷（26/25/23/24）

ファインダー（28）

セルフタイマー／録画ランプ（赤）

AE/AFロックランプ（緑）



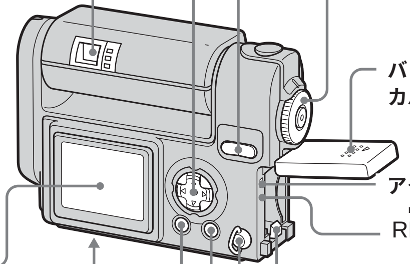
⚡/CHGランプ（オレンジ）
（11、26）

液晶画面

マルチ接続端子（底面）（12、14）

DSPL/LCD ON/OFFボタン（28）

MENUボタン（20）



MODEダイヤル（17）
📷: 静止画オート撮影
📷P: 静止画プログラム撮影
SCN: シーンセレクション
SET UP: SET UPの項目設定
🎞: 動画／クリップモーション撮影
／マルチ連写
▶: 画像再生／編集

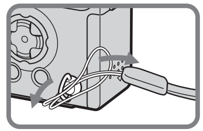
バッテリー／“ メモリースティック ”
カバー

アクセスランプ（19）

RESETボタン（別冊応用編 ➡ 43）

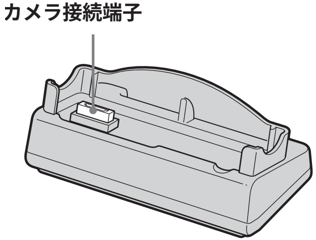
バッテリー取りはずしつまみ（10）

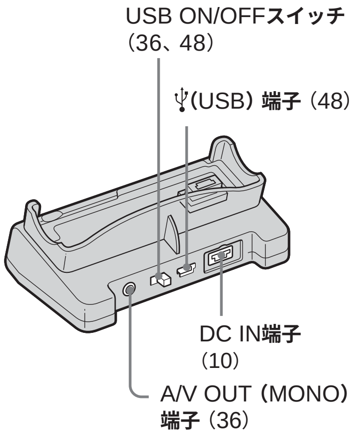
リストストラップ取付部



リストストラップの
取り付けかた

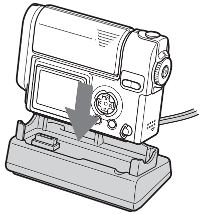
USBクレードル





取り付ける

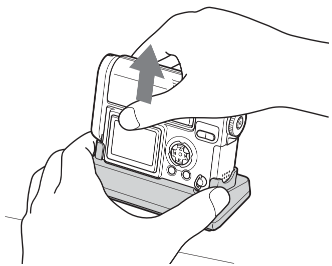
図の向きに本機を取り付けてください。



- 本機を奥まで確実に入れてください。

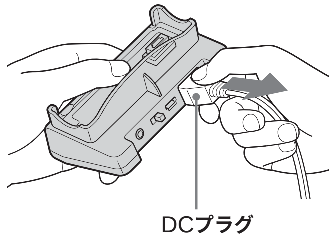
取りはずす

レンズ部を下向きにして図のように本機とUSBクレードルを持って取りはずしてください。

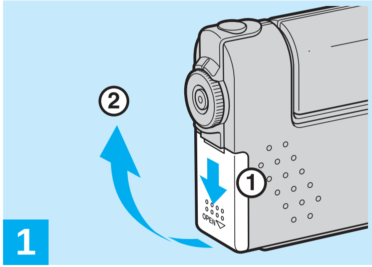


- 本機をUSBクレードルに取り付ける／取りはずすときは必ず本機の電源を切ってください。

ACパワーアダプターをUSBクレードルから抜くときは、図のようにDCプラグとUSBクレードルを持って取りはずしてください。

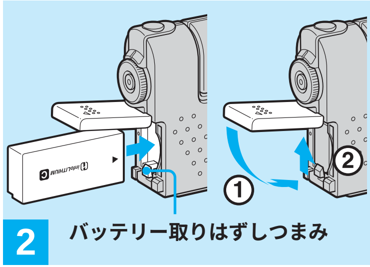


バッテリーを充電する



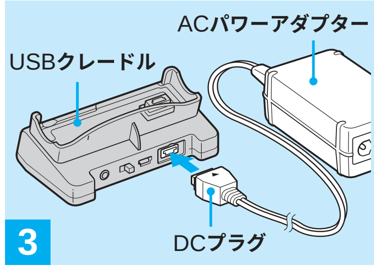
➡ バッテリー／“ メモリースティック ”カバーを開ける

矢印の方向にスライドさせると上に開きます。



➡ バッテリーを入れて、バッテリー／“ メモリースティック ” カバーを閉める

バッテリーの▲マークを奥にして入れます。
バッテリーが奥まで確実に入ったことを確かめてからカバーを閉めてください。



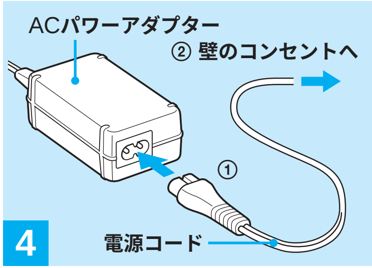
➡ ACパワーアダプターAC-LM5（付属）のケーブルをUSBクレードルのDC IN端子につなぐ

DCプラグの▲マークを上にしてつなぎます。

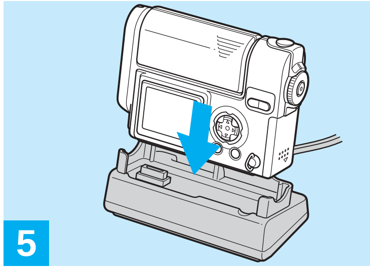
- **バッテリーを充電するときは、必ず本機の電源を切ってください（15ページ）。**
- 本機の電源には“ インフォリチウム ”バッテリー（Cタイプ）NP-FC10（付属）を使用します。それ以外のバッテリーはお使いになれません（**別冊応用編** ➡ 68ページ）。

- バッテリーの先端でバッテリー取りはずしつまみを下側に押しながらバッテリーを入れると、簡単に入ります。

- ACパワーアダプターのDCプラグを金属類でショートさせないでください。故障の原因になります。

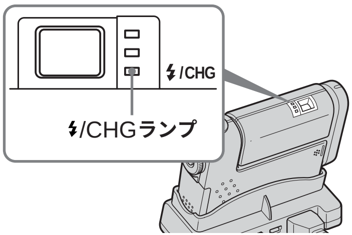


→ **電源コードをACパワーアダプターと壁のコンセントにつなぐ**



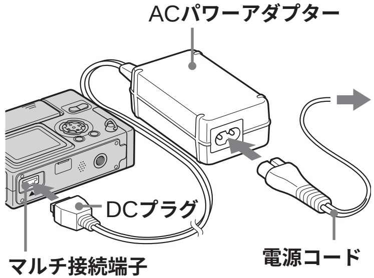
→ **本機をUSBクレードルに取り付ける**

図の向きに本機を取り付けてください。充電が始まり、ϟ/CHGランプが点灯します。



充電が終わるとϟ/CHGランプが消えます。

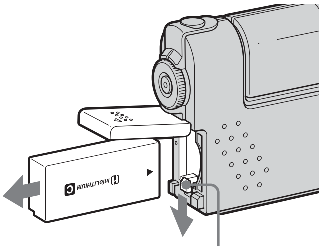
ACパワーアダプターのみで充電する



旅先などでUSBクレードルがなくてもバッテリーを充電することができます。DCプラグの▲マークを下にして、本機とACパワーアダプターを下記のようにつないで充電してください。

- **バッテリーを充電するときは、必ず本機の電源を切ってください**（15ページ）。
- カメラを置くときは、液晶画面が上になるようにしてください。
- バッテリーの充電が終わったら、ACパワーアダプターを本機のマルチ接続端子から取りはずしてください。

バッテリーを取り出す



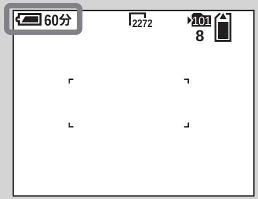
バッテリー取りはずしつまみ

バッテリー／“ メモリースティック ”カバーを開け、バッテリー取りはずしつまみを矢印の方向に押して取り出してください。

- 取り出すときは、バッテリーが落下しないようにご注意ください。

バッテリー残量時間表示

撮影／再生可能な残り時間が液晶画面に表示されます。



- 液晶画面をON/OFFしたときは正しい残量時間を表示するのに約1分かかります。
- 使用状況や環境によっては、正しく表示されない場合があります。

充電時間

使い切ったバッテリーを温度25°Cの環境でACパワーアダプターAC-LM5で充電したときの時間です。

バッテリー	充電時間
NP-FC10（付属）	約150分

バッテリーの使用時間と撮影／再生可能枚数

次の表は撮影モードを通常撮影にし、充電したバッテリーで温度25°Cの環境で使用した場合の目安です。また、撮影枚数は付属の“ メモリースティック ”を交換しながら撮影／再生したときの目安です。ご使用の状況によって記載より少ない数値になる場合があります。

静止画を撮影するとき

標準撮影[1)]

画像サイズ	NP-FC10（付属）	
	撮影枚数	使用時間
2272×1704	約140枚	約70分

1) 画質設定を「ファイン」、液晶画面ON、2回に1回フラッシュを発光、10回に1回電源を入／切して、30秒ごとに1回撮影

連続撮影[2)]

画像サイズ	液晶画面	NP-FC10（付属）	
		撮影枚数	使用時間
2272×1704	ON	約1 400枚	約70分
	OFF	約2 000枚	約100分
640×480	ON	約1 400枚	約70分
	OFF	約2 000枚	約100分

2) 画質設定を「スタンダード」、フラッシュモードを⚡（発光禁止）に設定し、約3秒ごとに撮影

静止画を再生するとき[3)]

画像サイズ	NP-FC10（付属）	
	再生枚数	使用時間
2272×1704	約3 200枚	約160分
640×480	約3 200枚	約160分

3) 液晶画面をONにして約3秒ごとにシングル画面で順番に再生

動画を撮影するとき[4)]

NP-FC10（付属）	
液晶画面ON	液晶画面OFF
約70分	約100分

4) 画像サイズが160×112の場合の連続撮影

- 次のような場合は使用時間と撮影／再生枚数は、表示よりも少なくなります。
  – 周囲が低温のとき
  – フラッシュ使用時
  – 電源の入／切をくり返したとき
  – ［LCDバックライト］が［明］になっているとき
  – パワーセーブ［切］にしたとき
  – Bluetooth機能使用時
  – 使用回数を重ねたり、時間が経過してバッテリーの容量が低下したとき（**別冊応用編** ➡ 68ページ）

パワーセーブについて

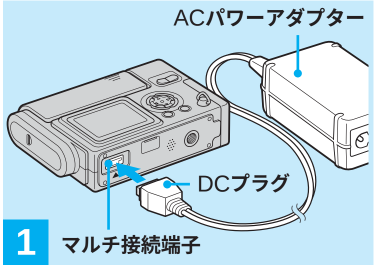
パワーセーブ［入］でご使用になると撮影時間を長持ちさせることができます。
MODEダイヤルを「SET UP」に合わせ、［設定1アイコン］（設定1）の［パワーセーブ］を［入］にしてください。
お買い上げ時は［入］に設定されています（**別冊応用編** ➡ 65ページ）。

- ［パワーセーブ］はバッテリー使用時のみ表示される項目です。

パワーセーブ［入］にすると

- 液晶画面の明るさがパワーセーブが［切］に比べて暗くなります。このとき［LCDバックライト］の設定はできません（**別冊応用編** ➡ 65ページ）。
- 静止画撮影時はシャッターボタンを半押ししたときのみピントが合います。

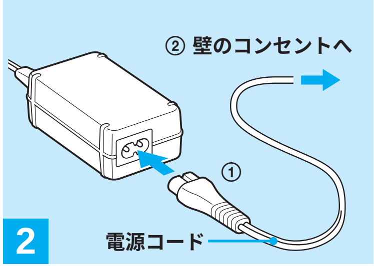
外部電源で使う



➡ **ACパワーアダプターAC-LM5（付属）のケーブルを本機のマルチ接続端子につなぐ**

カメラを置くときは、液晶画面が上になるようにしてください。
DCプラグの▲マークを下にしてつなぎます。

- バッテリーは取りはずしておいてください。
- ACパワーアダプターは、お手近なコンセントを使用してください。使用中、不具合が生じたときは、すぐにコンセントからプラグを抜き、電源を遮断してください。

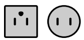
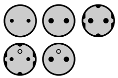
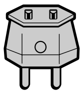


➡ **電源コードをACパワーアダプターと壁のコンセントにつなぐ**

- 使い終わったら、ACパワーアダプターを本機のマルチ接続端子から取りはずしてください。

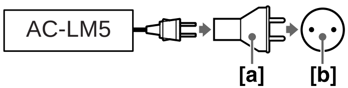
海外で使うときは

海外のコンセントの種類

壁のコンセントの形状例	変換プラグアダプター
 主に北米など	不要です。
 主にヨーロッパなど	

本機は海外でもお使いになれます。

- 付属のACパワーアダプターAC-LM5は、全世界の電源（AC 100 V～240 V・50/60 Hz）でお使いいただけます。
- 下図のように、付属のACパワーアダプターを差し込む変換プラグアダプター**[a]**が必要になる場合があります。

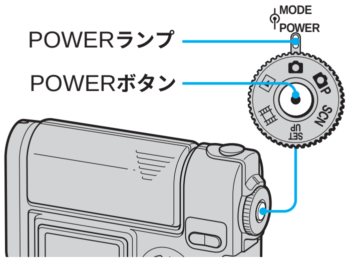


- 変換プラグアダプター／電源コンセント**[b]**の形状は旅行先の国や地域によって異なります。あらかじめ、旅行代理店などでおたずねの上、ご用意ください。
- 電子式変圧機（トラベル・コンバーター）はご使用にならないでください。故障の原因となります。

電源を入れる／切る

本機の電源の入れかたは次の2通りあります。

① POWERボタンを押して、電源を入れる



POWERランプが緑色に点灯し、電源が入ります。初めて電源を入れたときは、時計設定画面が表示されます（17ページ）。

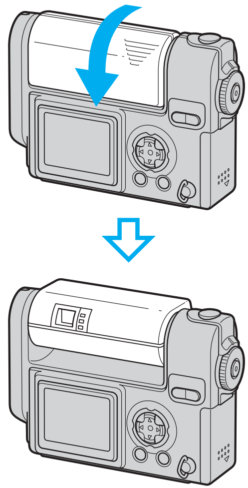
電源を切る

POWERボタンを再び押すと、POWERランプが消え、電源が切れます。

- 電源を入れたときに音がしないようにしたいときは、「SET UP」の［設定アイコン］（設定1）の［お知らせブザー］を［切］にしてください（**別冊応用編 →** 65ページ）。

② レンズ部を回転させて電源を入れる

レンズ部を矢印の方向に回すと、電源が入ります。元の方向にレンズ部を戻すと、電源が切れます。



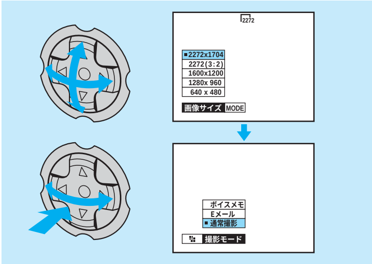
コントロールボタンについて

オートパワーオフ機能

バッテリーを使って、撮影、再生またはセットアップを行っているとき、本機の電源を入れたまま一定時間*操作をしないと、バッテリーの消耗を防ぐため、自動的に電源が切れます。
ただし、バッテリー使用中でも、下記の場合はオートパワーオフ機能は働きません。

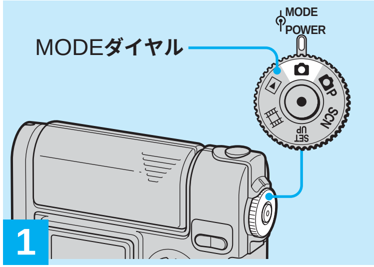
- 動画再生時
- スライドショー時
- USB接続中
- Bluetooth接続中
  （リモートカメラ時のみ3時間でオートパワーオフします。）

* パワーセーブ［入］のとき：
  約90秒間
  パワーセーブ［切］のとき：
  約3分間

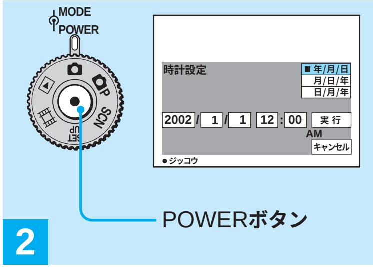


本機の設定を変えるときは、液晶画面にメニューやSET UP画面（**別冊応用編** ➡ 4ページ）を表示させ、コントロールボタンを使って操作します。
各項目を設定するときは、コントロールボタンの▲/▼/◀/▶を押して、項目や設定を選び、最後に中央の●、または◀/▶を押して決定します。

日付／時刻を合わせる

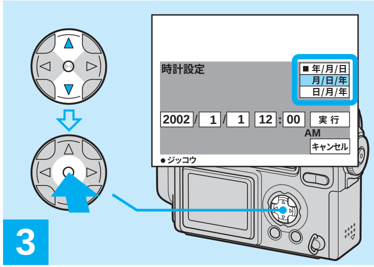


→ MODEダイヤルを「📷」にする



→ POWERボタンを押して、電源を入れる

POWERランプが緑色に点灯します。時計設定画面が表示されます。

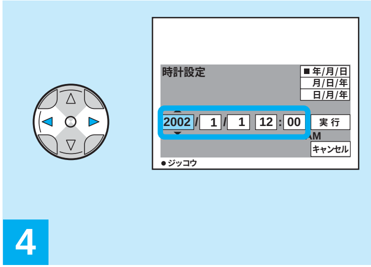


→ コントロールボタンの▲/▼で年月日の表示順を選び、中央の●を押す

表示は、［年/月/日］、［月/日/年］、［日/月/年］の中から選びます。

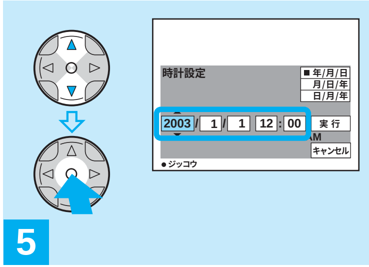
- MODEダイヤルを「📷P」、「SCN」、「🎞」、「▶」の位置にしても操作できます。
- 一度設定した日付、時刻を合わせ直すときは、MODEダイヤルを「SET UP」に合わせ、［🧰］（設定2）の［時計設定］を選び（**別冊応用編** ➞ 65ページ）、手順**3**から行ってください。

- 時計の設定を記憶しておくための充電式ボタン電池の残量が少なくなると（**別冊応用編** ➞ 66ページ）、自動的に時計設定画面が表示されます。このときは手順**3**以降を行って日付、時刻を設定し直してください。



➡ **コントロールボタンの◀/▶で設定する年、月、日、時、分の項目を選ぶ**

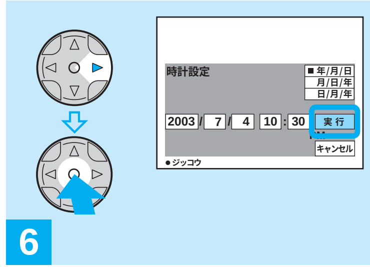
設定する項目の上下に▲/▼が表示されます。



➡ **コントロールボタンの▲/▼で数値を設定して、中央の●を押す**

数値が確定され、次の項目に移ります。上記の手順を繰り返して、すべての項目を設定してください。

• 手順3で［日/月/年］を選んだときは、24時間表示で設定してください。

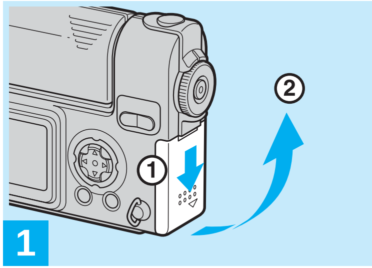


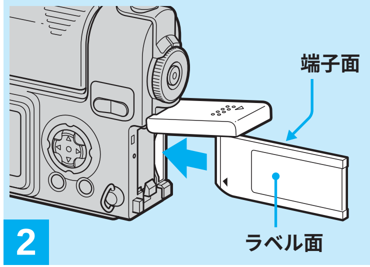
➡ **コントロールボタンの▶で［実行］を選び、中央の●を押す**

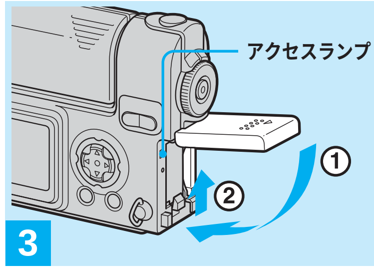
日付・時刻が設定され、時計が動き始めます。

• 中止するときは、コントロールボタンで［キャンセル］を選び、中央の●を押します。

“メモリースティック”を入れる／取り出す







➡ バッテリー／“メモリースティック”カバーを開ける

矢印の方向にスライドさせると上に開きます。

➡“メモリースティック”を入れる

“メモリースティック”を図の向きで「カチッ」と音がするまで差し込んでください。

➡ バッテリー／“メモリースティック”カバーを閉める

“メモリースティック”を取り出すには

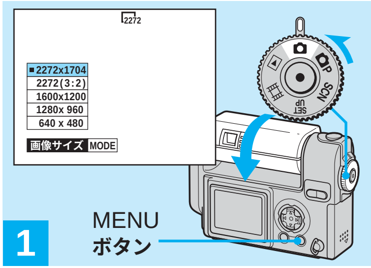
バッテリー／“メモリースティック”カバーを開け、“メモリースティック”を1回押して取り出してください。

- “メモリースティック”については、**別冊応用編** ➡ 67ページをご覧ください。

- “メモリースティック”を入れるときは、奥まできちんと差し込んでください。正しく差し込まないと正常な記録、再生ができないことがあります。

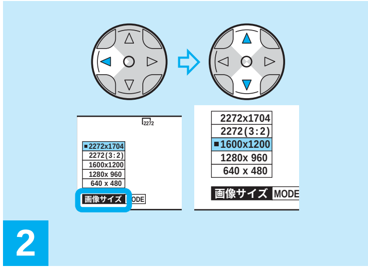
- **アクセスランプが点灯しているときは、画像の記録中、読み出し中です。このとき、絶対に“メモリースティック”を取り出したり、電源を切ったりしないでください。画像データが壊れることがあります。**

静止画の画像サイズを決める



➡ MODEダイヤルを「」にしてから、レンズ部を回転して電源を入れ、MENUボタンを押す

メニューが表示されます。



➡ コントロールボタンの◀で［］（画像サイズ）を選ぶ。▲/▼で希望の画像サイズを選ぶ

画像サイズが確定します。
設定が終わったら、MENUボタンを押してください。画面からメニューが消えます。

- MODEダイヤルを「P」、「SCN」の位置にしても操作できます。
- 画像サイズについては、33ページをご覧ください。
- メニューの［MODE］については、**別冊応用編** ➡ 14ページをご覧ください。

- ここで選んだ画像サイズの設定は、電源を切った後も保持されます。

静止画撮影のMODEダイヤルについて

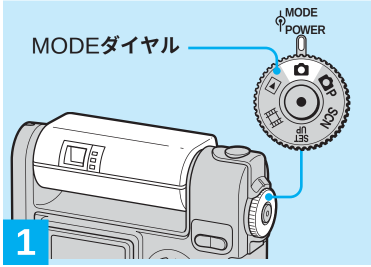
本機で静止画を撮影するときは、以下のような撮影方法があります。

（静止画オート撮影）
撮影に必要なピント合わせや露出、ホワイトバランスの調整を自動でおこなうため、簡単に撮影することができます。また、画質は［ファイン］、AF測距枠は［マルチポイントAF］になります（21ページ）。

P（静止画プログラム撮影）
メニューで撮影機能を設定できます（**別冊応用編** ➡ 58ページ）。

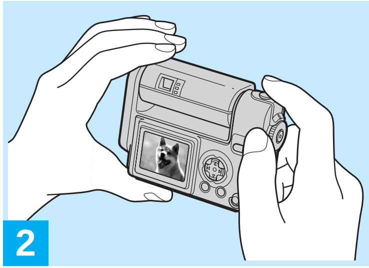
SCN（シーンセレクション）
夜景、夜景と人物、風景またはポートレートを撮影するときに使用すると、効果的です（30ページ）。

簡単に撮る — オート撮影



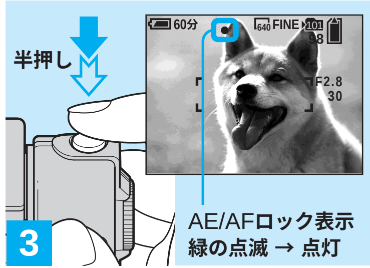
➡ MODEダイヤルを「📷」にしてから、レンズ部を回転して電源を入れる

“メモリースティック”が入っているときは、液晶画面に画像の記録フォルダの名前が約5秒間表示されます（**別冊応用編** ➡ 16ページ）。



➡ 両手でカメラを構え、被写体をフレーム中央部におさめる

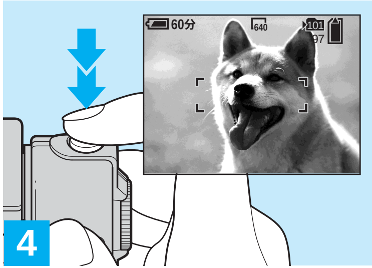
レンズやフラッシュ発光部、マイク（7ページ）に指がかからないようにしてください。



➡ シャッターボタンを半押しする

「ピピッ」と音がします。液晶画面内のAE/AFロック表示が点滅から点灯に変わると、撮影可能です。（被写体によっては画面が一瞬止まる場合があります。）

- シャッターボタンを離せば、いつでも撮影を中止できます。
- ピント合わせに必要な被写体までの距離は、50 cm以上です。これより近くの被写体を撮影するときは近接撮影してください（24ページ）。
- 液晶画面内に出る枠はピント合わせを行う範囲を表します（AF測距枠、**別冊応用編** ➡ 5ページ）。



➡ 半押しのまま、シャッターボタンをさらに押し込む

「カシャッ」と音がして、撮影が完了し静止画が“ メモリースティック ”に記録されます。録画ランプ（8ページ）が消えると、次の撮影ができます。

• バッテリーを使って撮影を行っているとき、本機の電源を入れたまま一定時間操作をしないと、バッテリーの消耗を防ぐため、自動的に電源が切れます（16ページ）。

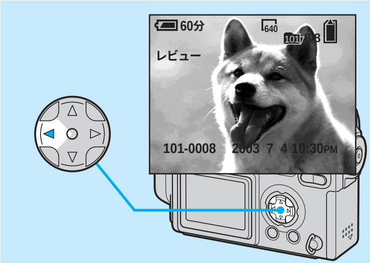
ピント合わせについて

ピントを合わせにくい被写体を撮影しようとしたときは、点滅していたAE/AFロック表示が遅い点滅に変わります。
自動ピント合わせ（AF＝オートフォーカス）の場合は、下記の条件でピントが合いにくいことがあります。構図を変えるなどしてもう1度ピントを合わせてみてください。

- 被写体が遠くて暗い
- 被写体と背景のコントラストが弱い
- ガラス越しの被写体
- 高速で移動する被写体
- 鏡や発光物など反射、光沢のある被写体
- 点滅する被写体
- 逆光になっている被写体

オートフォーカスには、マルチポイントAFと中央重点AFの2つがあります（**別冊応用編** ➞ 5ページ）。MODEダイヤルが「📷」のときは、自動的にマルチポイントAFに設定されます。

最後に撮影した画像を確かめる ― クイックレビュー



➡ コントロールボタンの◀（ ）を押す

通常の撮影モードに戻るには、シャッターボタンを軽く押すか、もう1度コントロールボタンの◀（ ）を押します。

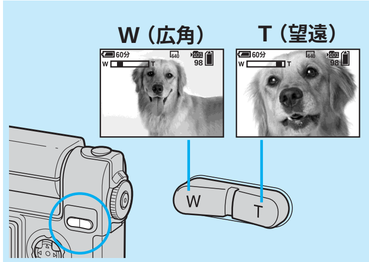
表示された画像を削除する

1 MENUボタンを押して、メニューを表示する。

2 コントロールボタンの▶で［削除］を選んで、中央の●を押す。

3 コントロールボタンの▲で［実行］を選んで、中央の●を押す。
画像が削除されます。

スマートズームで撮る



➡ SMART ZOOMボタンで希望の大きさにし、撮影する

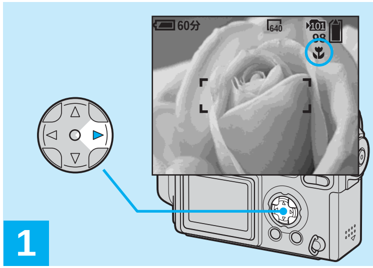
画像をデジタル処理して画質をほとんど劣化させないで拡大撮影することができます。
最大ズーム倍率は画像サイズによって異なります。
1600×1200のとき：1.4倍
1280×960のとき：1.7倍
640×480のとき：3.5倍
2272×1704、2272（3:2）の画像サイズについては、スマートズームは使用できません。

- スマートズーム時、液晶画面を見ると画像が粗く見える場合がありますが、撮影される画像には影響ありません。
- 液晶画面をOFFにしていると、スマートズームは働きません。液晶画面をONにしてご使用ください。
- スマートズーム時はAF測距枠は表示されません。［ ］（フォーカス）が［マルチAF］または［中央重点AF］に設定されている場合は、[ ]または[ ]が点滅し、中央付近の被写体を優先したAF動作になります。
- スマートズームは動画（MPEGムービー）撮影（**別冊応用編** ➡ 26ページ）中には使えません。

近接撮影 ― マクロ撮影



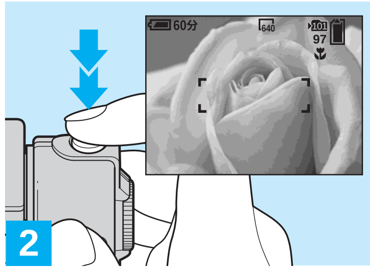
花や昆虫など、小さな被写体に接近して撮りたいときは、近接（マクロ）撮影をします。レンズ先端から約10 cmまで被写体に接近して撮影することができます。



➡ MODEダイヤルを「📷」にして、コントロールボタンの▶（🌷）を押す

液晶画面に🌷（マクロ）が表示されます。

- パワーセーブ（**別冊応用編** ➡ 65ページ）が［入］のときにはシャッターボタンを半押ししたときのみピントが合います。
- メニューが表示されているときは、最初にMENUボタンを押してメニューを消してください。
- MODEダイヤルを「📷P」、「SCN」（風景モード以外）（30ページ）、「🎞」の位置にしても操作できます。



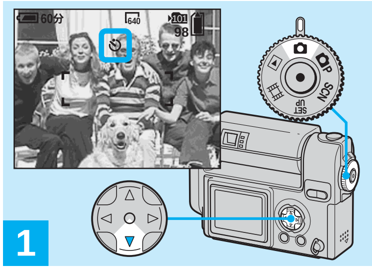
➡ 被写体をフレームにおさめ、撮影する

通常撮影に戻すには

もう1度コントロールボタンの▶（🌷）を押してください。液晶画面から🌷が消えます。

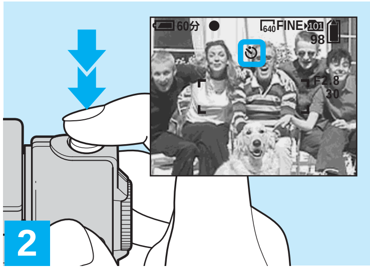
- **マクロ撮影時は液晶画面を使って撮影してください。ファインダーを使って撮影すると、実際に見える範囲と写る範囲がずれることがあります。**

セルフタイマーで撮る



➡ MODEダイヤルを「」にして、コントロールボタンの▼（）を押す

液晶画面に（セルフタイマー）が表示されます。



➡ 被写体をフレーム中央部におさめ、シャッターボタンを深く押し込む

セルフタイマーランプ（7ページ）がオレンジ色に点滅し、「ピッピッピ」とビープ音が鳴ります。約10秒後に撮影されます。

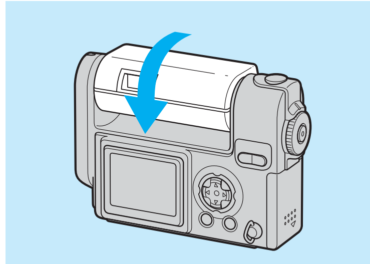
セルフタイマーを途中で止めるには

もう1度コントロールボタンの▼（）を押してください。

- メニューが表示されているときは、最初にMENUボタンを押してメニューを消してください。
- MODEダイヤルを「P」、「SCN」、「」の位置にしても操作できます。

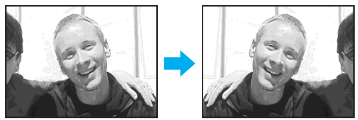
- カメラの前に立ってシャッターボタンを押すと、ピントや明るさが正しく設定されないことがあります。

レンズ部を回転させて撮る — 対面撮影



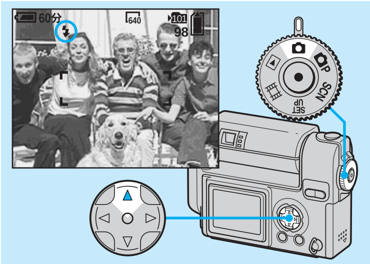
➡ レンズ部の角度を調節する

対面撮影のときは、レンズ部を矢印の向きに180度回転させます。
液晶画面に映る画像は鏡のように映りますが、記録される画像は実際の被写体と同じになります。



液晶画面に映る画像　**記録される画像**

フラッシュモードを選ぶ



➡ MODEダイヤルを「」にして、コントロールボタンの▲（⚡）を繰り返し押し、フラッシュモードを選ぶ

フラッシュモードは下記の通りです。

表示なし（オート）：撮影状況の光量が足りないと判断した場合、自動的に発光します。
⚡（強制発光）：周囲の明るさに関係なく発光します。
（発光禁止）：発光しません。

- MODEダイヤルを「P」、「SCN」（ソフトスナップモード）、「」（クリップモーション）の位置にしても操作できます。
- フラッシュ推奨撮影距離は約0.5 m～約1.7 mです（[ISO］が［オート］のとき）。（MODEダイヤルが「P」以外のときは、［ISO］が［オート］に設定されます。）
- メニューが表示されているときは、最初にMENUボタンを押してメニューを消してください。
- フラッシュモードがオートまたは⚡（強制発光）のとき、暗い場所で液晶画面を見ると画像にノイズが目立つ場合がありますが、撮影される画像には影響ありません。
- フラッシュを充電している間は、⚡/CHGランプが点滅します。充電が完了すると消灯します。

赤目軽減するには

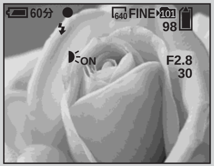
撮影前にフラッシュが予備発光し、目が赤く写るのを軽減します。
「SET UP」の［赤目軽減］を［入］にしてください（**別冊応用編 ➞** 64ページ）。液晶画面にが表示されます。



- 赤目軽減の効果には個人差があります。また被写体までの距離や予備発光を見ていないなどの条件によって、効果が現れにくいことがあります。

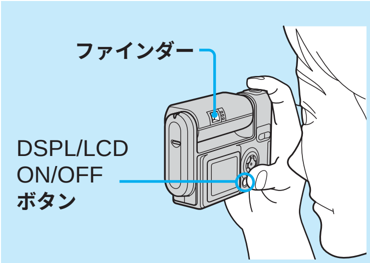
AFイルミネーターを使って撮影する

暗い場所でフォーカスを合わせるための補助光です。
「SET UP」の［AFイルミネーター］（**別冊応用編 ➞** 64ページ）を［オート］にしてください。撮影時にONが表示され、シャッターボタンを半押ししてフォーカスがロックされるまでの間だけ自動的に発光します。



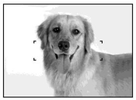
- AFイルミネーターを発光しても、充分な光が被写体に届かない場合（推奨距離：約1.5 mまで）やコントラストが弱い被写体を撮影する場合、フォーカスは合いません。
- AFイルミネーターの光が画像の中心からずれる場合がありますが、光が被写体に届いていれば、フォーカスは合います。
- フォーカスプリセット（**別冊応用編 ➞** 7ページ）のときは、AFイルミネーターは使えません。
- ［F］（フォーカス）が［マルチAF］または［中央重点AF］に設定されている場合は、AF測距枠は表示されません。［ ］または［］が点滅し、中央付近の被写体を優先したAF動作になります。
- シーンセレクション（30ページ）で以下のモードを選んだ場合、AFイルミネーターは発光しません。
  — 夜景モードのとき
  — 風景モードのとき
- AFイルミネーターは明るい光です。安全には問題ありませんが、至近距離で直接人の目に当たらないようにお使いください。

ファインダーで撮る



バッテリーの消耗をおさえたいときや、液晶画面で画像を確認しづらいときの撮影に便利です。
DSPL/LCD ON/OFFボタンを押すたびに、表示が下記の順で切り換わります。

画面表示OFF

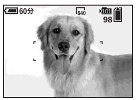


↓

液晶画面OFF

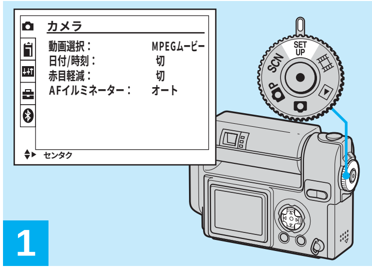
↓

画面表示ON



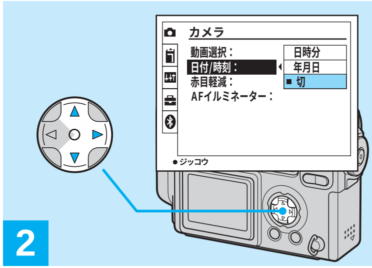
- **ファインダーでは撮影範囲の全体を確認することはできません。撮影できる範囲を正しく把握するには、液晶画面での撮影をおすすめします。**
- 表示項目について詳しくは、**別冊応用編** ➡ 72ページをご覧ください。
- 液晶画面内のAE/AFロック表示と同じく、ファインダー部のAE/AFロックランプが点滅から点灯に変わると、撮影可能です（21ページ）。
- 液晶画面がOFFのときスマートズームは働きません（23ページ）。
- 液晶画面がOFFのとき（フラッシュモード）／（セルフタイマー）／（マクロ）を押すと液晶画面に画像が約2秒表示され、設定の確認と変更ができます。

日付や時刻を入れて撮る

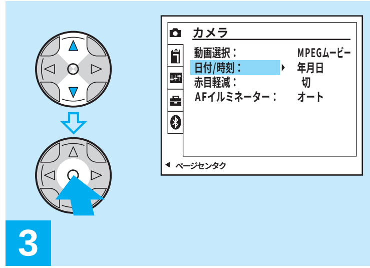


→ MODEダイヤルを「SET UP」にする

SET UP画面が表示されます。



→ コントロールボタンの▲で［📷］（カメラ）を選び、▶を押す。▲/▼で［日付／時刻］を選び、▶を押す



→ コントロールボタンの▲/▼で挿入するデータの種類を選び、中央の●を押す

日時分：画像に撮影日時分を入れる
年月日：画像に撮影年月日を入れる
切：画像に日付・時刻は記録されない

設定が終わったら、MODEダイヤルを「📷」にして、撮影してください。

- ［年月日］を選んだ場合、「日付／時刻を合わせる」（17ページ）で選んだ表示順の年月日が挿入されます。
- MODEダイヤルを「📷P」、「SCN」の位置にしても日付・時刻を挿入できます。
- ここで選んだ設定は、電源を切った後も保持されます。

- 日付や時刻を入れて撮影すると、あとで消去できませんのでご注意ください。
- 撮影時は実際の日付や時刻は表示されず、液晶画面左上にDATEが表示されます。実際の日付や時刻は、再生時に画像右下に赤色で表示されます。

場面に合わせて撮る ─ シーンセレクション

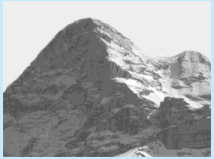
夜景モード



夜景＆人物モード



風景モード



ソフトスナップモード



夜景、夜景と人物、風景、ポートレートを撮影するときは、下記のモードを使用して効果を高めることもできます。

夜景モード

暗い雰囲気を損なわずに、夜景を撮影することができます。シャッタースピードが遅くなるので、三脚のご使用をおすすめします。

- フラッシュは使用できません。

夜景＆人物モード

夜景と手前の人物を同時に撮影するときに使います。シャッタースピードが遅くなるので、三脚のご使用をおすすめします。

- 夜景の雰囲気を損なわずに、手前の人物を際だたせた画像を撮影することができます。
- フラッシュが強制的に発光します。

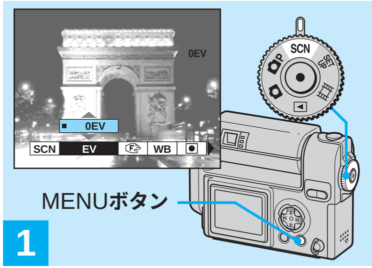
風景モード

遠景にピントを合わせることで、遠くの風景などを撮影しやすくします。

- マクロ撮影はできません。
- フラッシュは自動発光しません。

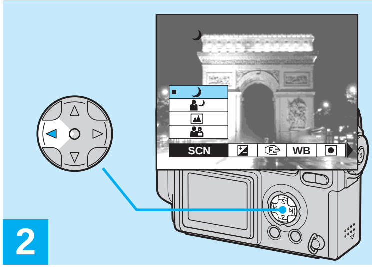
ソフトスナップモード

人物の肌の色を、明るく暖かい色調で、きれいに撮影できます。また、ソフトフォーカス効果がありますので、人物や花などを撮影した画像を優しい雰囲気に仕上げることができます。

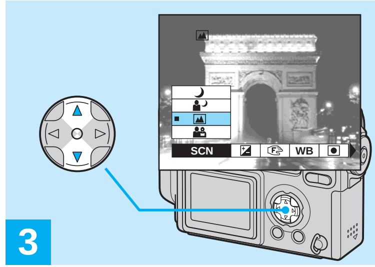


➡ MODEダイヤルを「SCN」にして、MENUボタンを押す

メニューが表示されます。



➡ コントロールボタンの◀で［SCN］を選ぶ



➡ コントロールボタンの▲/▼で希望のモードを選ぶ

モードが確定します。
設定が終わったら、MENUボタンを押してください。画面からメニューが消えます。

シーンセレクションを解除するには
MODEダイヤルを「SCN」以外にしてください。

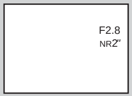
• ここで選んだ設定は、電源を切った後も保持されます。

静止画の画質を決める

NRスローシャッター

撮影した画像からノイズを除去し、きれいな画像を得る機能です。
モードとシャッタースピードが下記の条件になると、自動的にNRスローシャッターモードに入り、シャッタースピード表示の前に「NR」が表示されます。

モード	夜景モード 夜景＆人物モード
シャッタースピード	1/2秒、1/2秒より遅い



シャッターボタンを深く押し込む。

↓



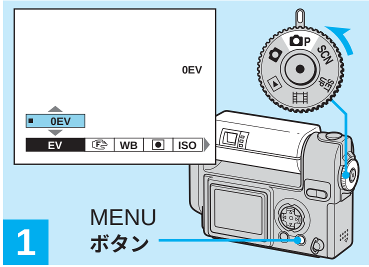
このとき画面は黒くなります。

↓



「処理中」の表示が消えると、画像が記録されます。

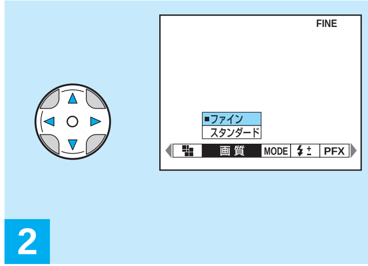
• 手ぶれを防ぐために三脚のご使用をお勧めします。



➡ MODEダイヤルを「P」にしてから、レンズ部を回転して電源を入れ、MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

• MODEダイヤルを「SCN」の位置にしても操作できます。



➡ コントロールボタンの◀/▶で［ ］（画質）を選ぶ。▲/▼で希望の画質を選ぶ

画質が確定します。
設定が終わったら、MENUボタンを押してください。画面からメニューが消えます。

• 画質は［ファイン］（高画質）と［スタンダード］（標準）の2種類から選ぶことができます。
• ここで選んだ画質の設定は、電源を切った後も保持されます。

画像サイズと画質について

撮影目的に合わせて、画像のサイズ（画素数）と画質（圧縮率）を選ぶことができます。画像サイズを大きく、画質を高くするほど、画像はきれいになりますが、データ容量が大きくなり、“メモリースティック”に記録できる枚数は少なくなります。
目的に合った画像サイズと画質をお選びください。
撮影した画像のサイズをあとで変えることもできます（リサイズ機能、**別冊応用編** ➡ 23ページ）。

画像サイズは下記の5種類から選ぶことができます。用途例はその画像サイズに適する最小画素数の場合です。よりきれいな画像にするときは、画像サイズを大きくしてください。

画像サイズ	**用途例**
2272×1704	高精細プリント
2272（3:2）	3:2プリント*
1600×1200	A4サイズの印刷
1280×960	ハガキサイズの印刷
640×480	ホームページ作成

* プリント紙の横縦比3：2に合うように、画像を3：2で撮影します。

“メモリースティック”1枚に記録できる枚数**

枚数はファイン（スタンダード）の順で記載されています。

（単位：枚）

画像サイズ ＼ 容量	16MB	32MB	64MB	128MB	MSX -256	MSX -512	MSX -1G
2272×1704	8 (14)	16 (30)	32 (60)	65 (121)	119 (216)	242 (440)	494 (898)
2272（3:2）	8 (14)	16 (30)	32 (60)	65 (121)	119 (216)	242 (440)	494 (898)
1600×1200	16 (30)	33 (61)	66 (123)	133 (246)	238 (446)	484 (907)	988 (1852)
1280×960	24 (46)	50 (93)	101 (187)	202 (376)	357 (649)	726 (1320)	1482 (2694)
640×480	97 (243)	196 (491)	394 (985)	790 (1975)	1428 (3571)	2904 (7261)	5928 (14821)

**撮影モードが［通常撮影］の場合
その他のモードの記録枚数は**別冊応用編** ➡ 57ページをご覧ください。

- 撮影残枚数が9999枚より多いときは、「>9999」と表示されます。

- 本機の液晶画面で見るときはどの画像サイズでも同じ大きさに見えます。
- 記録枚数は、撮影状況によって数値と異なる場合があります。
- 画像サイズの数値（例：2272×1704）は、画素数を表しています。

本機の液晶画面で見る

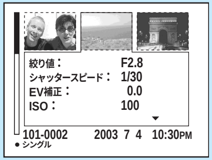
シングル（1枚表示）画面



インデックス
（9枚表示）画面



インデックス
（3枚表示）画面



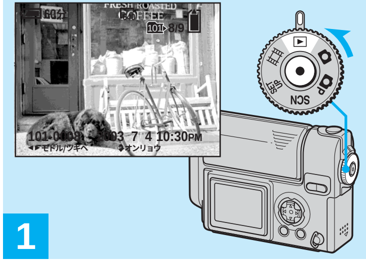
撮影した画像を本機の画面ですぐに見ることができます。表示方法は下記の3種類から選ぶことができます。

シングル（1枚表示）画面
1枚の画像を画面いっぱいで見ることができます。

インデックス（9枚表示）画面
9枚の画像を同時に見ることができます。

インデックス（3枚表示）画面
3枚の画像を同時に見ることができます。画像情報も表示できます。

シングル画面で見る



1

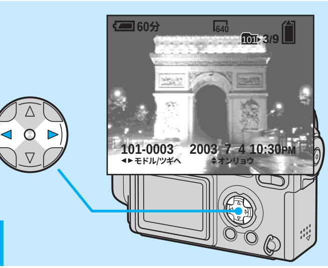
➡ MODEダイヤルを「▶」にして、電源を入れる

選択されている記録フォルダ（**別冊応用編** ➡ 16ページ）の最新の画像が表示されます。

- 動画の再生については、**別冊応用編** ➡ 27ページをご覧ください。
- 画像に表示されるマークについては、**別冊応用編** ➡ 74ページをご覧ください。

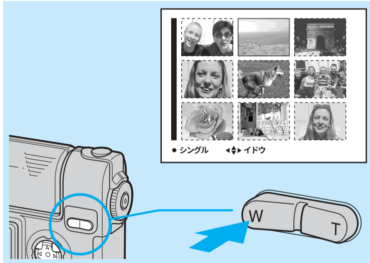
インデックス（9枚/3枚表示）画面で見る

2



➡ コントロールボタンの◀/▶で静止画を選ぶ

◀：前の画像が表示されます。
▶：次の画像が表示されます。

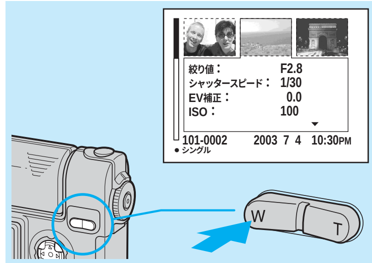


➡ SMART ZOOM Wボタンを1回押す

インデックス（9枚表示）画面に切り換わります。

次（前）のインデックス画面を表示するには

コントロールボタンの▲/▼/◀/▶を押して、黄色い枠を上下左右に動かしてください。



➡ SMART ZOOM Wボタンをもう1回押す

インデックス（3枚表示）画面に切り換わります。
コントロールボタンの▲/▼を押すと残りの画像情報が表示されます。

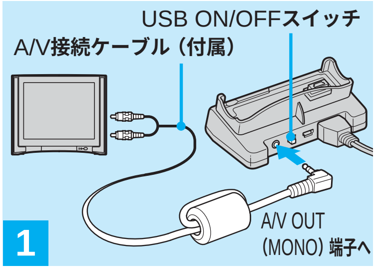
次（前）のインデックス画面を表示するには

コントロールボタンの◀/▶を押してください。

シングル画面に戻るには

SMART ZOOM Tボタンを繰り返し押すか、コントロールボタンの中央の●を押してください。

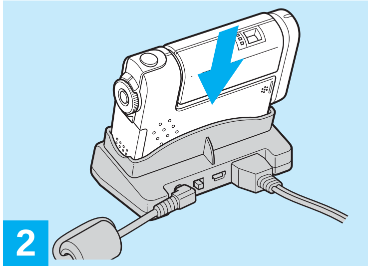
テレビで見る



➡ 付属のA/V接続ケーブルでUSBクレードルのA/V OUT（MONO）端子と、テレビの映像/音声入力端子を接続する

テレビの音声入力端子がステレオタイプのときはA/V接続ケーブルの音声プラグ（黒）を左音声端子に接続してください。

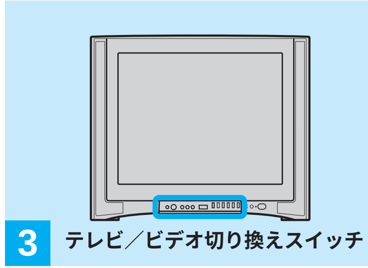
- USBケーブルが接続されている場合は、USBクレードルのUSB ON/OFFスイッチを「OFF」にしてください。
- 本機とテレビの電源を切ってからA/V接続ケーブルをつないでください。



➡ 本機をUSBクレードルに取り付ける

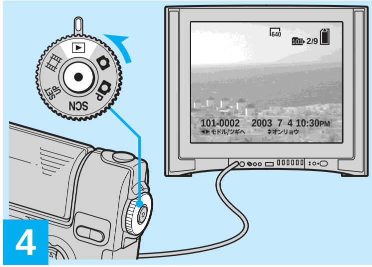
図の向きに取り付けてください。

- 本機を奥まで確実に入れてください。



➡ テレビの電源を入れ、テレビ／ビデオ切り換えスイッチを「ビデオ」にする

- お使いのテレビによって、スイッチの名称や位置は異なります。

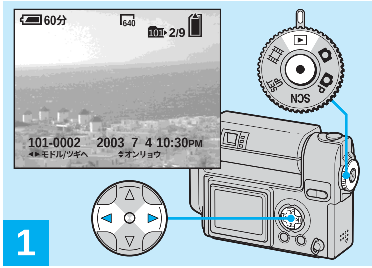


➡ MODEダイヤルを「▶」にして、本機の電源を入れる

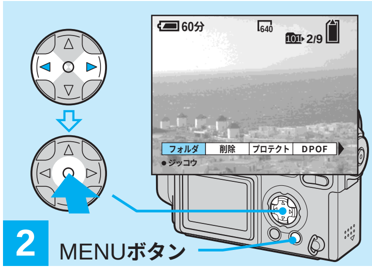
コントロールボタンの◀/▶で画像を選びます。

- 海外でお使いのときはビデオ出力信号の切り換えが必要な場合もあります（**別冊応用編** ➡ 65ページ）。

静止画を削除する



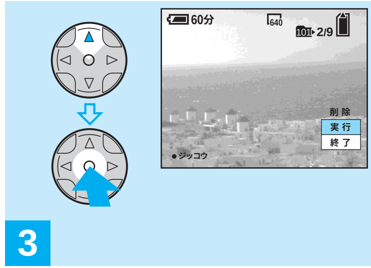
➡ MODEダイヤルを「▶」にして、電源を入れる。
コントロールボタンの◀/▶で削除したい画像を表示する



➡ MENUボタンを押し、コントロールボタンの◀/▶で［削除］を選び、中央の●を押す

この時点ではまだ削除されていません。

- プロテクトされている画像（**別冊応用編** ➡ 21ページ）は削除できません。



➡ コントロールボタンの▲で［実行］を選び、中央の●を押す

「アクセス中」と表示され、画像が削除されます。

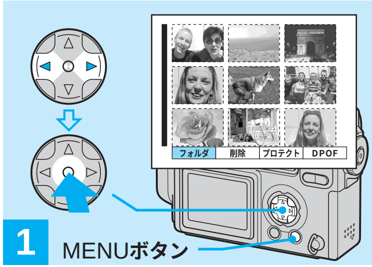
続けて他の画像も削除するには

コントロールボタンの◀/▶で削除したい画像を表示します。［削除］を選び、中央の●を押してください。次に▲で［実行］を選び、中央の●を押してください。

削除を中止するには

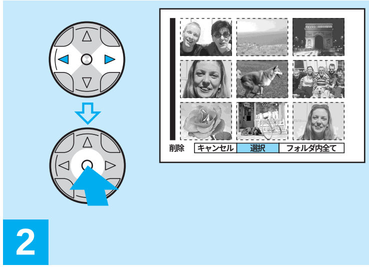
コントロールボタンの▼で［終了］を選び、中央の●を押してください。

インデックス（9枚表示）画面で削除する



1

➡ インデックス（9枚表示）画面（35ページ）で、MENUボタンを押す。
コントロールボタンの◀/▶で［削除］を選び、中央の●を押す

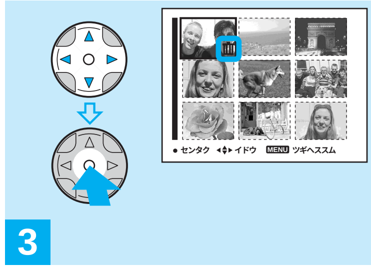


2

➡ コントロールボタンの◀/▶で［選択］を選び、中央の●を押す

フォルダ内のすべての画像を削除するには

コントロールボタンの▶で［フォルダ内全て］を選び、中央の●を押してください。次に［実行］を選び、中央の●を押してください。プロテクトされていないすべての画像が削除されます。
削除を中止するときは［終了］を選び、中央の●を押してください。



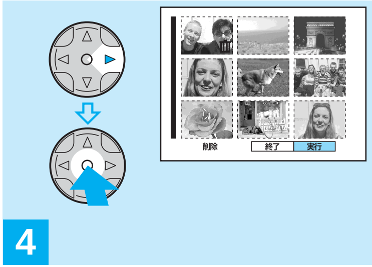
3

➡ 削除したい画像をコントロールボタンの▲/▼/◀/▶で選び、中央の●を押す

選んだ画像に🗑（削除）マークがつきます。この時点ではまだ削除されていません。削除したいすべての画像に🗑マークをつけてください。

- 選択を取り消すには、もう1度取り消したい画像を選んで、中央の●を押してください。🗑マークが消えます。

インデックス（9枚表示）画面で削除する（つづき）



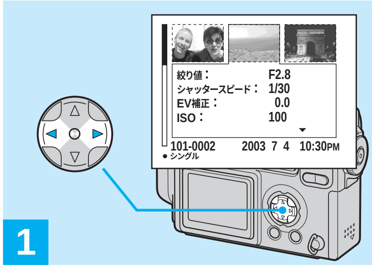
➡ MENUボタンを押し、コントロールボタンの▶で［実行］を選び、中央の●を押す

「アクセス中」と表示され、🗑マークをつけた画像が削除されます。

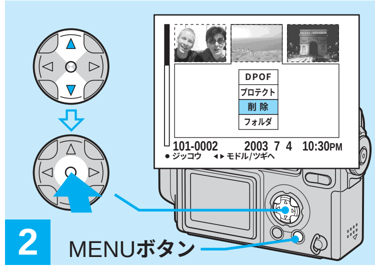
削除を中止するには

コントロールボタンの◀で［終了］を選び、中央の●を押してください。

インデックス（3枚表示）画面で削除する

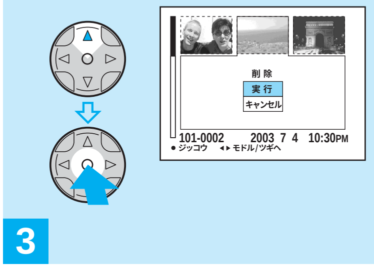


➡ インデックス（3枚表示）画面（35ページ）で、コントロールボタンの◀/▶で削除したい画像を中央に表示する



➡ MENUボタンを押し、コントロールボタンの▲/▼で［削除］を選び、中央の●を押す

この時点ではまだ削除されていません。



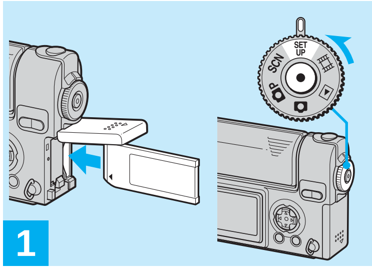
➡ コントロールボタンの▲で［実行］を選び、中央の●を押す

「アクセス中」と表示され、中央の画像が削除されます。

削除を中止するには

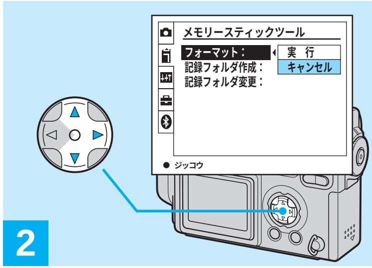
コントロールボタンの▼で［キャンセル］を選び、中央の●を押してください。

“メモリースティック”をフォーマットする



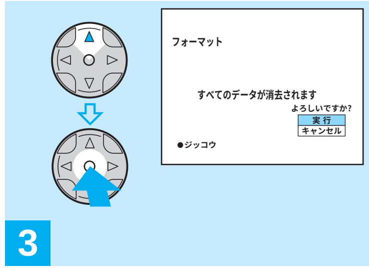
1

➡ **フォーマットしたい“メモリースティック”を入れる。**
MODEダイヤルを「SET UP」にして、電源を入れる



2

➡ **コントロールボタンの▲/▼で［］（メモリースティックツール）を選ぶ。**
▶で［フォーマット］を選ぶ。
▶を押して▲で［実行］を選び、中央の●を押す



3

➡ **コントロールボタンの▲で［実行］を選び、中央の●を押す**

- 「フォーマット」とは、“メモリースティック”に画像を記録できるようにする作業のことで、「初期化」とも言います。本機に付属、または市販の“メモリースティック”はすでにフォーマットされており、すぐにお使いになれます。
- **フォーマットすると、プロテクトした画像を含め、“メモリースティック”内のすべてのデータが消去されますので、ご注意ください。**

フォーマットを中止するには

コントロールボタンの▼で［キャンセル］を選び、中央の●を押してください。

「フォーマット中」という表示が出ます。表示が消えると、フォーマットが完了します。

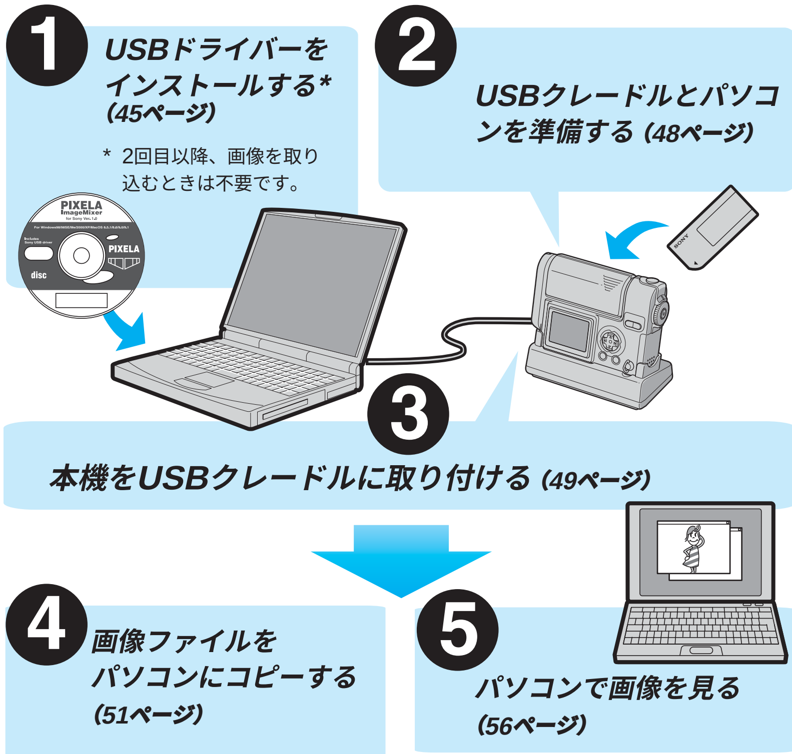
静止画をパソコンに取り込むまで

右記のような流れで、本機で撮影した画像をパソコンに取り込みます。

お使いのOSでの手順は

OSによって手順❶が不要な場合があります。

OS	手順
Windows 98/ 98SE/2000/Me	手順❶〜❺すべて（45〜52、56ページ）
Windows XP	手順❷〜❺（48〜50、54〜56ページ）
Mac OS 8.5.1/ 8.6/9.0/9.1/9.2、Mac OS X (v10.0/v10.1)	59ページ



静止画をパソコンに取り込む

パソコンの推奨使用環境

■ Windowsパソコン環境

OS: Microsoft Windows 98/
Windows 98SE/
Windows 2000 Professional/
Windows Millennium Edition/
Windows XP Home Edition/
Windows XP Professional
工場出荷時にインストールされていることが必要です。
上記のOSでもアップグレードされた場合や、マルチブート環境の場合は、動作保証いたしません。

CPU: MMX Pentium 200 MHz以上

USB端子: 標準装備であること

ディスプレイ:800×600ドット以上
High Color（16 bitカラー、65 000色）以上

■ Macintosh環境

OS: Mac OS 8.5.1/8.6/9.0/9.1/9.2、Mac OS X (v10.0/v10.1)
工場出荷時にインストールされていることが必要です。
ただし、次のモデルの場合はMac OS 9.0/9.1にアップデートしてご使用ください。

– Mac OS 8.6が工場出荷時にインストールされていて、CD-ROMドライブがスロットローディングのiMac
– Mac OS 8.6が工場出荷時にインストールされているiBook、Power Mac G4

USB端子: 標準装備であること

ディスプレイ:800×600ドット以上
32 000色モード以上

- 1台のパソコンで2台以上のUSB機器を接続している場合、同時に使用するUSB機器によっては、本機が動作しないことがあります。
- USBハブ経由でご使用の場合は、動作保証いたしません。
- 推奨環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。

USBモードについて

USBモードには［標準］と［PTP］*の2通りの接続方法があり、お買い上げ時には［標準］に設定されています。
ここでは主に［標準］での使いかたを説明します。

* Windows XP、Mac OS Xに対応。パソコン接続時に、本機に設定されている記録フォルダ内のデータのみをパソコンにコピーします。

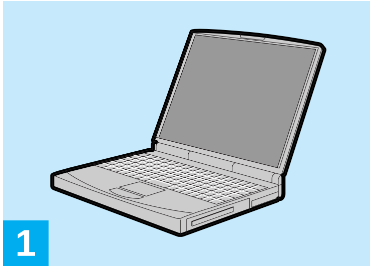
パソコンとの通信について

パソコンがサスペンド・レジューム機能、またはスリープ機能から復帰しても、通信状態が復帰できないことがあります。

USB端子がないパソコンをお使いの場合は

USB端子も“ メモリースティック ”スロットもないパソコンをお使いの場合は、アクセサリーを使うことにより画像を取り込めます。詳しくは、デジタルイメージングカスタマーサポートのホームページをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/support-di/

❶ USBドライバーをインストールする 98 2000 98SE Me



1

➡ パソコンの電源を入れる

この時点では、本機をパソコンに接続しないでください。



2

➡ 付属のCD-ROMを、パソコンのCD-ROMドライブにセットする

しばらくすると、タイトル画面が表示されます。
タイトル画面が表示されないときは、デスクトップ画面上の（マイ コンピュータ）→（ImageMixer）の順にダブルクリックしてください。

- ここでは、Microsoft Windows Meの画面を使って説明します。OSの種類によって、画面表示や操作方法が異なることがあります。
- **パソコンを使用中の場合には、使用中のソフトウェアをすべて終了させてください。**
- Windows 2000をお使いの方は、Administrator（管理者権限）でログオンしてください。
- **ディスプレイの設定を800×600ドット以上、High Color（16 bitカラー、65 000色）以上にしてください。800×600ドット未満、256色以下ではインストールのタイトル画面が表示されません。**

❶ USBドライバーをインストールする（つづき）



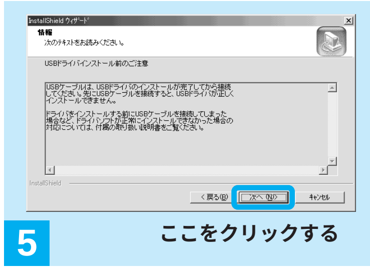
➡「USB Driver」の部分に（ポインタ）を動かし、クリックする

「Sony USB Driver用のInstallShield ウィザードへようこそ」画面が表示されます。



➡［次へ］をクリックする

「情報」画面が表示されます。



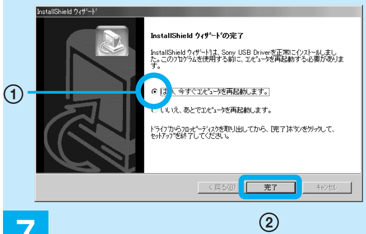
➡［次へ］をクリックする

USBドライバーのインストールが始まります。



6

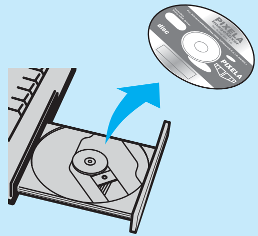
➡「InstallShieldウィザードの完了」画面が表示されます



7

➡「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」の○をクリックして◉にし、［完了］をクリックする

パソコンの電源が一度切れ、すぐに入ります（再起動）。

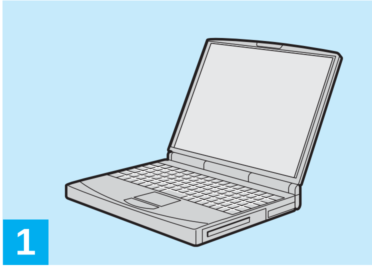


8

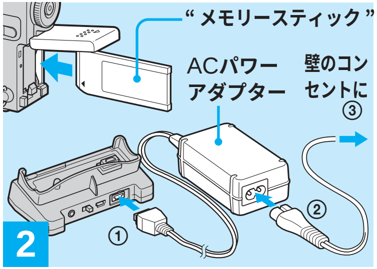
➡ 再起動後に、パソコンからCD-ROMを取り出す

本機とパソコンでUSB接続ができるようになります。

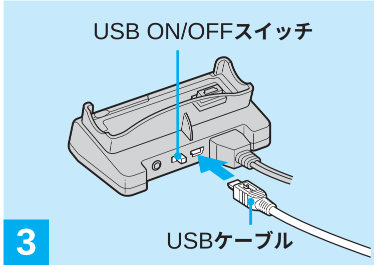
❷ USBクレードルとパソコンを準備する 98 98SE 2000 Me XP



➡ パソコンの電源を入れる



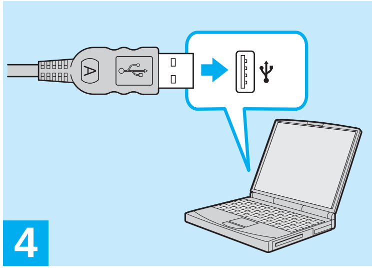
➡ 本機に画像を記録した" メモリースティック "を入れる。USBクレードルとACパワーアダプターをつなぎ、壁のコンセントにつなぐ



➡ USB ON/OFFスイッチが「ON」になっているか確認して、付属のUSBケーブルをUSBクレードルの♆(USB) 端子につなぐ

- ACパワーアダプターとUSBクレードルについては9、10ページをご覧ください。
- " メモリースティック "については、19ページをご覧ください。

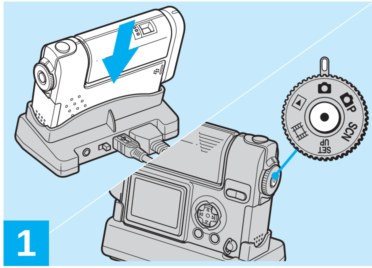
❸ 本機をUSBクレードルに取り付ける 98 98SE 2000 Me XP



4

→ USBケーブルをパソコンのUSB端子につなぐ

• デスクトップ型パソコンをお使いの場合は、パソコン後面にあるUSB端子のご使用をおすすめします。

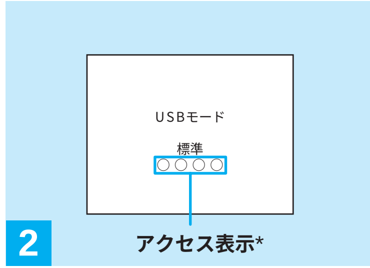


1

→ 本機をUSBクレードルに取り付けてから、電源を入れる

• Windows XPをお使いの場合は、パソコンの画面に自動再生ウィザードが表示されます。54ページにお進みください。

• 本機を奥まで確実に入れてください。



2

本機の液晶画面に「USBモード 標準」と表示されます。
初回接続時のみ、パソコンが本機を認識するための作業を自動的に行います。作業が終わるまでお待ちください。

* 通信中はアクセス表示が赤色になります。

- 手順**2**を終了しても「USBモード 標準」と表示されないときは、本機の「SET UP」の［USB接続］が［標準］になっているか確認してください（**別冊応用編** → 65ページ）。
- USB**接続中は、**USB**クレードルの**USB ON/OFF**スイッチを切り換えたり、本機を**USB**クレードルから取りはずしたりしないでください。画像データが壊れることがあります。**USB**接続を終了するときは「**❢ USB**接続を終了するときは」（右記）をご覧ください。**

❢ USB接続を終了するときは

（USBケーブルを抜く/USBクレードルから本機を取りはずす/本機の電源を切るときは）

Windows 2000/Me/XP**をお使いの場合は**

1 タスクトレイの をダブルクリックする。

2 （Sony DSC）をクリックし、［停止］をクリックする。

3 取りはずすドライブを確認して、［OK］をクリックする。

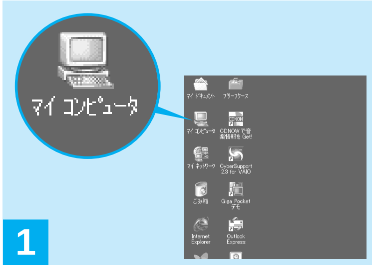
4 ［OK］をクリックする。
Windows XPをお使いの方は、この手順は不要です。

5 USBケーブルを抜く、USBクレードルから本機を取りはずす、または本機の電源を切る。

Windows 98/98SE**をお使いの場合は**

アクセス表示が白くなっていることを確認して、手順5のみ行ってください。

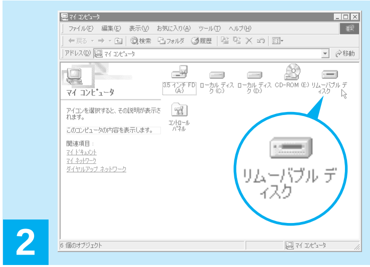
❹ 画像ファイルをパソコンにコピーする 98 98SE 2000 Me （XP 54〜55ページ）



➡［マイ コンピュータ］をダブルクリックする

「マイ コンピュータ」画面が表示されます。

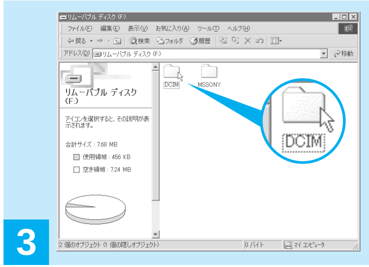
• ここでは、「マイドキュメント」というフォルダに画像をコピーします。



➡［リムーバブル ディスク］をダブルクリックする

本機内の“ メモリースティック ”の内容が表示されます。

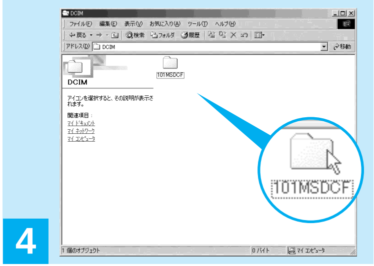
• リムーバブル ディスクが表示されていないときは、53ページをご覧ください。



➡［DCIM］をダブルクリックする

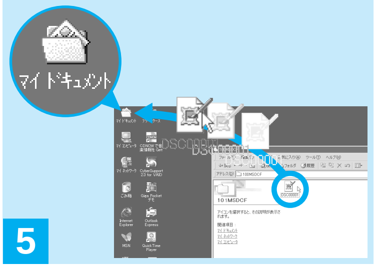
新しくフォルダを作成していない場合は、「101MSDCF」フォルダのみ表示されます。

❹ 画像ファイルをパソコンにコピーする（つづき）



➡ 取り込みたい画像の入っているフォルダをダブルクリックする

フォルダの内容が表示されます。

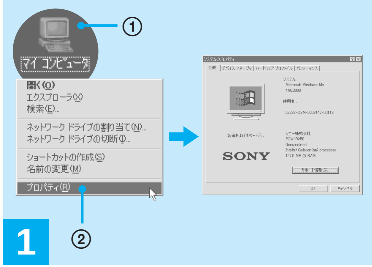


➡ 画像ファイルを「マイドキュメント」フォルダにドラッグ＆ドロップする

「マイドキュメント」フォルダに画像ファイルがコピーされます。

• コピー先に同じファイル名の画像があると、元の画像を上書きしてもよいかを確認するメッセージが表示されます。［はい］をクリックすると上書きされます。上書きしないときは「いいえ」をクリックして、ファイル名を変更してください。

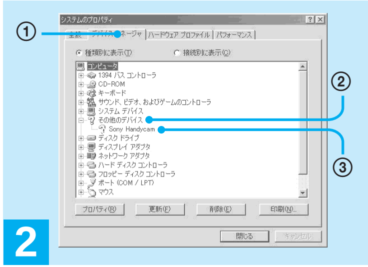
「リムーバブル ディスク」が表示されないときは



→［マイ コンピュータ］を右クリックし、［プロパティ］をクリックする

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

• Windows 2000をお使いの方は、「システムのプロパティ」画面の［ハードウェア］タブをクリックしてください。

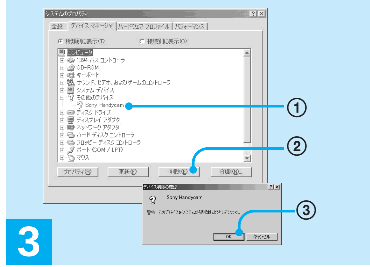


→別のデバイスが表示されていないか確認する

①［デバイス マネージャ］をクリックする。

②［その他のデバイス］をダブルクリックする。

③“ ”マークの付いた「Sony DSC」または「Sony Handycam」がないか確認する。



→表示されていたら削除する

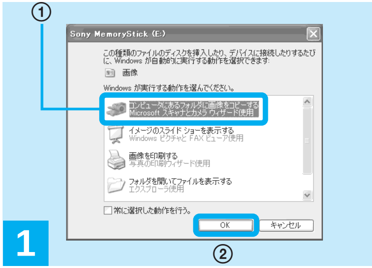
①「Sony DSC」または「Sony Handycam」をクリックする。

②［削除］をクリックする。
「デバイス削除の確認」画面が表示されます。

③［OK］をクリックする。
デバイスが削除されます。

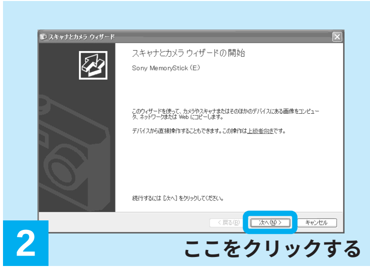
デバイスを削除したあと、付属のCD-ROMのUSBドライバーをインストールし直してください（45ページ）。

❹ 画像ファイルをパソコンにコピーする XP



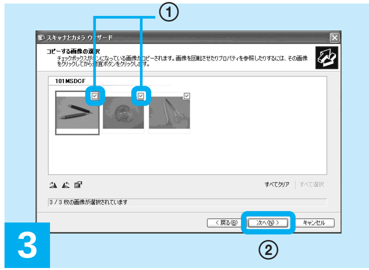
➡ 48ページの手順でUSB接続を行うと、自動再生ウィザードが起動する。[コンピュータにあるフォルダに画像をコピーする。Microsoftスキャナとカメラウィザード使用] をクリックし、[OK] をクリックする

「スキャナとカメラ ウィザードの開始」画面が表示されます。



➡ [次へ] をクリックする

本機の“メモリースティック”に記録されている画像が表示されます。



➡ パソコンにコピーしたくない画像の ☑ をクリックして □ にし、[次へ] をクリックする

「画像の名前とコピー先」画面が表示されます。



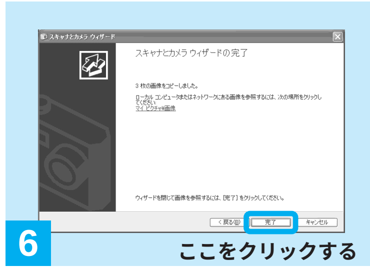
→ 画像の名前とコピー先を指定し、[次へ] をクリックする

画像のコピーが始まります。コピーが終了すると、「そのほかのオプション」画面が表示されます。



→ [作業を終了する] を選び、[次へ] をクリックする

「スキャナとカメラ ウィザードの完了」画面が表示されます。



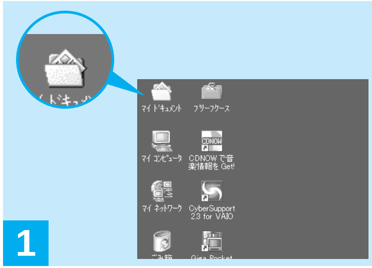
→ [完了] をクリックする

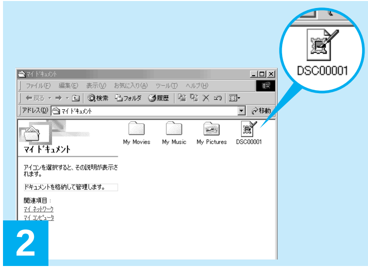
ウィザード画面が閉じます。

• ここでは、画像のコピー先を「マイドキュメント」にしています。

• 続けて画像をコピーしたい場合は、50ページの「❗ USB接続を終了するときは」の手順を行い、手順1から行ってください。

❺ パソコンで画像を見る





➡ デスクトップ画面上の［マイドキュメント］をダブルクリックする

「マイドキュメント」フォルダの内容が表示されます。

➡ 見たい画像ファイルをダブルクリックする

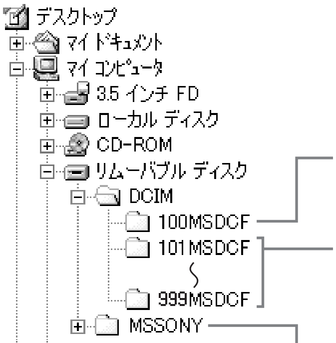
画像が開きます。

- 51、54ページで、「マイドキュメント」フォルダに画像をコピーした場合の説明です。
- Windows XPをお使いの場合は、［スタート］→［マイドキュメント］をクリックしてください。

画像ファイルの保存先とファイル名

本機で撮影した画像ファイルは、“メモリースティック”内のフォルダにまとめられています。

Windows Meで見たときの例



フォルダ作成機能がないカメラで撮影した画像ファイルのフォルダ

本機で撮影した画像ファイルのフォルダ。新しくフォルダを作成していない場合は、「101MSDCF」のみです。

フォルダ作成機能がないカメラで撮影したEメールモードの画像データ／動画データ／ボイスメモの音声データのフォルダ

- 「100MSDCF」または「MSSONY」フォルダに入っているデータはフォルダ作成機能がないカメラで撮影されたデータです。これらのフォルダには本機で画像を記録できません。再生のみ可能です。
- フォルダについては、**別冊応用編**
➡ 16ページをご覧ください。

このフォルダの中にある	ファイル名	ファイルの内容
101MSDCF 〜 999MSDCF	DSC0□□□□.JPG	• 通常撮影した静止画ファイル −マルチ連写モード（**別冊応用編** → 12ページ） • 以下のモードで同時に撮影した静止画ファイル −Eメールモード（**別冊応用編** → 14ページ） −ボイスメモモード（**別冊応用編** → 14ページ）
	DSC0□□□□.JPE	• Eメールモードで撮影した、通常よりサイズの小さい画像ファイル。
	DSC0□□□□.MPG	• ボイスメモモードで撮影した音声つきファイル（**別冊応用編** → 14ページ）。
	CLP0□□□□.GIF	• クリップモーションのノーマルモードで撮影した画像ファイル（**別冊応用編** → 11ページ）
	CLP0□□□□.THM	• クリップモーションのノーマルモードで撮影したとき、同時に撮影されるインデックス画像ファイル
	MBL0□□□□.GIF	• クリップモーションのモバイルモードで撮影した画像ファイル（**別冊応用編** → 11ページ）
	MBL0□□□□.THM	• クリップモーションのモバイルモードで撮影したとき、同時に撮影されるインデックス画像ファイル
	MOV0□□□□.MPG	• MPEGムービーモードで撮影した動画ファイル（**別冊応用編** → 26ページ）

表について

- ファイル名の意味は左記の通りです。□□□□には0001から9999までの数字が入ります。
- 下記のファイルの数字部分は同じになります。
  – Eメールモードで撮影した小サイズ画像ファイルとその画像ファイル
  – ボイスメモモードで撮影した音声ファイルとその画像ファイル
  – クリップモーションで撮影した画像ファイルとそのインデックス画像ファイル
- Bluetooth**機能を使った場合のファイルの保存先や保存名については、別冊の「サイバーショット**Bluetooth**編」をご覧ください。**

Macintoshをお使いの場合

Mac OS 9.1/9.2、Mac OS X (v10.0/v10.1)をお使いの方は手順❷から操作してください。
ディスプレイの設定を800×600ドット以上、32 000色モード以上にしてください。

❶USBドライバーをインストールする（Mac OS 8.5.1/8.6/9.0のみ）

1 パソコンの電源を入れる。

2 付属のCD-ROMを、パソコンのCD-ROMドライブにセットする。
「PIXELA ImageMixer for Sony」画面が表示されます。

3 （Setup Menu）をダブルクリックする。

4 表示された画面 （USB Driver）をクリックする。
「USB Driver」画面が表示されます。

5 OSの入っているハードディスクアイコンをダブルクリックして、画面を開く。

6 手順4で開いたウィンドウから、下記の2つのファイルを、手順5で開いたウィンドウの「システムフォルダ」のアイコンの上に移動（ドラッグ＆ドロップ）する。
- Sony USB Driver
- Sony USB Shim

7 確認のメッセージが表示されたら［OK］をクリックする。

8 パソコンを再起動し、CD-ROMを取り出す。

❷本機とパソコンをUSBクレードルとUSBケーブルで接続する

詳しくは、48〜49ページをご覧ください。

パソコンからUSBケーブルを抜く、USBクレードルから本機を取りはずす、または本機の電源を切るときは
“メモリースティック”またはドライブのアイコンをゴミ箱にドラッグ＆ドロップしてから、USBケーブルを抜く、USBクレードルを取りはずす、または本機の電源を切ってください。
- Mac OS Xをお使いの場合は、パソコンの電源を切ってからUSBケーブルを抜くなどの作業を行ってください。

❸画像ファイルをパソコンにコピーする

1 デスクトップ画面上の新しく認識されたアイコンをダブルクリックする。
本機内の“メモリースティック”の内容が表示されます。

2 ［DCIM］をダブルクリックする。

3 取り込みたい画像の入っているフォルダをダブルクリックする。

4 画像ファイルをハードディスクアイコンにドラッグ＆ドロップする。
ハードディスクに画像ファイルがコピーされます。

❹パソコンで画像を見る

1 ハードディスクアイコンをダブルクリックする。

2 画像ファイルをフォルダの中から選んでダブルクリックする。
画像が開きます。

Mac OS Xをお使いの方へ

Eメールモードの画像ファイルをクリックした際、「書類“ DSC0□□□□.JPE ”を開くことができるアプリケーションがありません」という画面が出たときは、以下の設定を行ってください。
バージョンによって、画面表示が異なることがあります。

1 「書類“ DSC0□□□□.JPE ”を開くことができるアプリケーションがありません」画面の［アプリケーション選択］ボタンをクリックする。

2 「表示」を［推奨アプリケーション］から［全アプリケーション］に変更する。

3 アプリケーションが一覧表示されている部分から、［QuickTime Player］を選択し、［開く］ボタンをクリックする。

デジタル
イメージング
カスタマー
ご登録

電話のおかけ間違いにご注意ください。

お客様へのサポートをより充実させていくため、「カスタマーご登録」をお勧めしています。詳しくは同梱の「カスタマーご登録のお勧め」をご覧ください。

■ **カスタマーご登録およびご登録内容の変更：**
http://www.sony.co.jp/di-regi/
お問い合わせ：**ソニーマーケティング（株）カスタマー専用デスク**
電話：03-5977-7255
受付時間：**月〜金曜日　午前10時〜午後6時**（ただし、年末、年始、祝日を除く）

お問い合わせ窓口のご案内

パソコンとの接続方法や最新サポート情報

デジタルイメージングカスタマーサポート
http://www.sony.co.jp/support-di/

ご使用上での不明な点や技術的なご質問

テクニカルインフォメーションセンター
電話：　0564-62-4979
（電話のおかけ間違いにご注意ください。）
受付時間：月〜金曜日　午前9時〜午後5時
（ただし、年末、年始、祝日を除く）
お電話の前に以下の内容をご用意ください。
①お客様のカスタマーID
（カスタマーご登録していただくとIDが発行されます。）
②本機の型名（本機底面をご覧ください。）
③本機の製造番号（本機底面をご覧ください。）

修理申し込み

製品の品質には万全を期しておりますが、万一不具合が生じた場合左記のテクニカルインフォメーションセンターへお電話ください。
お客様のお宅まで指定宅配便で取りにおうかがいします。

3-078-409-02

eco info

この説明書は100%古紙再生紙とVOC（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキを使用しています。

Printed in Japan

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川6-7-35

http://www.sony.co.jp/

サイバーショットオフィシャルWEBサイト
http://www.sony.co.jp/cyber-shot/
サイバーショット、マビカの最新情報を掲載。
撮影方法やアクセサリー情報、
パソコン接続に関する情報を掲載しています。